

# 三原中央図書館利用者アップ大作戦！～ポップづくり～

[だいじょうぶ だいじょうぶ (東京書籍)]

第5学年 5名 指導者 原田圭輔

本単元で育成する資質・能力 論理的思考力・表現力・共感性

## 単元について

本単元は、学習指導要領C読むこと「イ目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること」「オ本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」を受けて設定したものである。

本教材は、新しい発見や出会いが増えるとともにこまったことにも合い、不安になっていたぼくが、「だいじょうぶ だいじょうぶ」と言うおじいちゃんに助けられることによって、今度は反対におじいちゃんをはげますようになった物語である。おじいちゃんと子どものあたたかい関係が込められた物語であり、他の「おじいちゃん・おばあちゃんと子どものあたたかい関係が描かれた作品」と比べて読むには適した作品と言える。

## 児童の実態

5年児童(男子4名、女子1名 計5名)  
児童アンケート(肯定的に答えた児童の割合)の結果

読書をするのが楽しい。	100%
みんなで話し合うと学習がわかる。	80%

友達と考えを出し合い、練り合っていくことに対して課題が見られた。意見をつなげたり、深めたりしていくことが課題である。また、意見に対して否定的に捉える児童も見られる。

読書については肯定的に答える児童が多い。しかし、読書量において児童によって偏りがあったり、読む本のジャンルについても偏りがあったりする。

## 指導にあたって

指導にあたっては、活動目標を「三原中央図書館利用者アップ大作戦！」と設定し、自分たちが薦める本を紹介するためのポップを作る。そのために、「だいじょうぶ だいじょうぶ」をもとに、作者が作品に込めた思いを読み取ったり、作品のキャッチコピーを考えたりする。中央図書館を利用している人が読みたくなるようなキャッチコピーやポップを考えるという目的意識をもたせる。

第一次では、読者に本を読んでもらうために、本屋や図書館ではどんな工夫をしているのか確認し、その中で「ポップ」というものがあることに気付かせる。学校図書館司書と連携し、中央図書館の利用者を増やすためのポップを考えるという学習課題を設定する。

第二次では、「だいじょうぶ だいじょうぶ」をもとに、物語の「ナゾ」を解かせながら、作者の作品に込めた思いを読み取らせたり、キャッチコピーやポップの作り方についてつかませたりする。

第三次では、自分が薦める本(テーマ「おじいちゃん・おばあちゃんと子どものあたたかい関係が描かれた物語」)のポップを作らせ、友達と交流させたり、学校図書館司書から助言を受けさせたりして、よりよいものにさせる。

## 単元の目標

- 作品に込めた作者の思いを読み取りながら、キャッチコピーやポップをつくることができる。 【関・意・態】
- 「おじいちゃん・おばあちゃんと子どものあたたかい関係が描かれた本」について、本を多読したり、比べ読みをしたりして、自分の薦める本を選び、ポップにすることができる。 【読むこと イ】
- 作品に込めた作者の思いやそれに対するキャッチコピーを交流し、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。 【読むこと オ】
- ポップにおける文章の構成を理解することができる。 【言語事項 イ(キ)】

## 単元でつける力

- テーマや目的に応じて、複数の作品を読み、自分の薦める本を選ぶ力。
- 友達との交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりする力。

## そのための言語活動

作品に込めた作者の思いをもとに、キャッチコピーを考えたり、作品のおすすめポイントについてまとめたりして、本のポップをつくる。

評価規準

教科【国語科】			育成しようとする 資質・能力
関心・意欲・態度	読む能力 (★論理的思考力)	言語についての 知識・理解・技能	
作品に込めた作者の思いを読み取りながら、キャッチコピーやポップをつくろうとしている。	★テーマに沿って、本を多読したり、比べ読みをしたりして、自分の薦める本を選んでいる。 作品に込めた作者の思いやそれに対するキャッチコピーを交流し、自分の考えを広げたり、深めたりしている。	文章の構成について理解している。	【論理的思考力】 多読や比較読みをして情報収集したり、分析したりしている。 【表現力】 相手(三原市の小学生)や目的(利用者増)に応じて、本のポップを作っている。 【共感性】 いろいろなポップや考えがあっても受け止め、認めている。

本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

【論理的思考力】

児童アンケートによると、「読書をすることは楽しい」と全員が肯定的に答えている。

しかし、自分の好きなジャンルだけを読んだり、分量の少ない本を選んだりする等、偏った読書になっている傾向がある。読書量についても、たくさん読む児童がいる反面、全く読んでいない児童がいる状況もある。

また、国語の授業では、叙述のみを表面的に読み答えたり、物語の流れを捉え間違えた勝手な読みをしたりする児童が見られる。

そこで、テーマを「おじいちゃん・おばあちゃんと子どものあたたかい関係が描かれた本」と設定し、図書館司書と協力して本を選び、並行読書させる。同じテーマの様々な本を読ませることで、多読をさせ、比較させ、分析させる。課題図書として設定し、必ず読まないといけない強制感をもたせることで、読書量を増やしていきたい。

また、「だいじょうぶ だいじょうぶ」を全員で読み、物語の「ナゾ」を解くことで、筋道立てて読む方法を学ばせる。その読み方をもとに、並行読書も行わせていく。

以上の学習活動を通して、論理的思考力を高めていく。

【表現力】

昨年度まで、主人公になりきって心情や物語のその後を表現させた「〇〇日記」や登場人物の心情や物語の流れを考えながら音読する「音読劇」等、読解のための言語活動に取り組んできている。しかし、物語のおもしろさや表現の工夫を捉えたり、自分が読んで感じた物語のよさをまとめたりする活動はあまりしていない。

今回は、三原市中央図書館の利用者を増加させるために、相手が「読んでみたい!」と思えるように物語のおもしろさやよさを伝えなければいけないという目的を設定することで、これまでとは違った読みや違った表現ができると期待する。

目的や相手を意識しながら、キャッチコピーを考えたり、イラストや言葉のレイアウトを考えたりすることによって、表現力を高めていく。

【共感性】

2つのポップができる。1つは、「だいじょうぶ だいじょうぶ」のポップであり、もう1つは自分が薦める本のポップである。前者では、共通の物語であるが、選んだキャッチコピーやイラスト、レイアウトがそれぞれ異なるものができる。互いに見合うことで、表現の幅を広げることができる。後者では、様々な話の様々なポップができる。互いに見合うことで、よさや改善点を交流し合い、図書館利用者が本当に読みたくなるかよりよくしていく必要感がでてくる。いろいろなポップに触れることで、それぞれを認め、よさを学んでいくことを期待する。

**研究仮説にかかわって**

**【思考の「見える」化】**

児童の思考を「見える」化するために、ノート指導では、物語の「ナゾ」を設定し、それらを解決するために考えた個人の読みや集団での深まった読みを書かせる。個人で考える時間を確保し、考えたことをノートに確実に書かせる。また、話し合いをしながら深まっていった考えは、その都度ノートへ記入させる。また、並行読書で読んだ本についての記録をノートにさせる。あらすじやよさ、感想をまとめさせる。本のポップを作る時に、活用できるように記録させる。

**【相手や目的等の「意識」化】**

本單元では、言語活動を「本のポップ作り」と設定している。相手は、三原市中央図書館を利用する同世代の人（小学5年～中学1年）であり、目的は、ポップを掲示したコーナーを作ることを通しての三原市中央図書館の利用率の向上である。

「意識」化させるために、図書館司書に単元の始めや途中、まとめに授業に入っただき、ポップ作成の助言などで連携をする。

**指導計画** (全7時間)

次	時	学習活動	評価			
			関	読	言	評価規準 (評価方法)
一	1	<b>課題の設定</b> 学習課題「中央図書館の利用者アップ大作戦！」を設定し、本のポップを見て、学習計画を立てる。	○			学習課題から学習の見通しをもち、学習計画を立てている。 (ノート・発言)
	2	<b>情報の収集</b> 物語「だいじょうぶ だいじょうぶ」を読み、一人学びをする。		○		本文を読んで、物語の大体を捉え、物語の「ナゾ」を見つけている。 (ノート)
二	3	<b>整理・分析</b> 物語の「ナゾ」について話し合い、解決する。		○		物語の「ナゾ」について、叙述をもとに考え、答えを見つけている。 (ノート・発言)
	4	<b>情報の収集 整理・分析 (本時)</b> キャッチコピーを考え、「だいじょうぶ だいじょうぶ」のポップを作る。		○		作品に込めた作者の思いやそれに対するキャッチコピーを交流し、自分の考えを広げたり、深めたりしている。 (ノート・発言)
	5	<b>まとめ・創造・表現</b> 「だいじょうぶ だいじょうぶ」のポップを完成させ、互いに見合う。	○		◎	作品に込めた作者の思いを読み取りながら、ポップをつくらうとしている。 (ポップ) 相手を意識しながらポップのレイアウトを考えている。 (ポップ)
三	6 ・ 7	<b>まとめ・創造・表現</b> 自分が選んだ本のポップを作り、友達と見合いながらよりよいものにしていく。		◎	○	テーマに沿って、本を多読したり、比べ読みをしたりして、自分の薦める本を選んで、ポップを作っている。 (ポップ) 相手や目的を意識しながらポップのレイアウトを考えている。 (ポップ)
		<b>実行・振り返り</b>	三原市中央図書館 ポップを活用したコーナー作り			

「おじいちゃん・おばあちゃんと子どものあたたかい関係が描かれた本」の並行読書

# 三原中央図書館利用者アップ大作戦！～ポップづくり～

[風切るつばさ (東京書籍)]

第6学年 7名 指導者 原田圭輔

本単元で育成する資質・能力 論理的思考力・表現力・共感性

## 単元について

本単元は、学習指導要領C読むこと「イ目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること」「オ本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」を受けて設定したものである。

本教材は、周りの仲間たちから傷つけられた自尊心から飛べなくなったクルルが、カララを助けるために突き飛ばすことで空が再び飛べるようになった物語である。謝罪の言葉をいくら繰り返しても言えば許されるものではないこと、さらに、大事なのは相手の気持ちを考えて行動することの大切さを作者は作品から伝えようとしている。また、言葉がすべてではなく、心のない言葉は意味がないことを読者に伝えようとしている。

作者の思いを読み取り、キャッチコピーを考えることに適した作品と言える。

## 児童の実態

6年児童(男子2名、女子5名 計7名)  
児童アンケート(肯定的に答えた児童の割合)の結果

読書をするのが楽しい。	100%
みんなで話し合うと学習がわかる。	85%

友達と考えを出し合い、練り合っていくことに対して課題が見られた。意見をつなげたり、深めたりしていくことが課題である。また、自分の意見を活発に発言できる児童がいる反面、自分の意見を発言できない児童も見られる。

読書については肯定的に答える児童が多い。しかし、読む本のジャンルに偏りがある。

また、国語の授業では、叙述のみを表面的に読み答えたり、物語の流れを捉え間違えた勝手な読みをしたりする児童が見られる。

## 指導にあたって

指導にあたっては、活動目標を「三原中央図書館利用者アップ大作戦！」と設定し、自分たちが薦める本を紹介するためのポップを作る。そのために、「風切るつばさ」をもとに、作者が作品に込めた思いを読み取ったり、作品のキャッチコピーを考えたりする。中央図書館を利用している人が読みたくなるようなキャッチコピーやポップを考えるという目的意識をもたせる。

第一次では、読者に本を読んでもらうために、本屋や図書館ではどんな工夫をしているのか確認し、その中で「ポップ」というものがあることに気付かせる。学校図書館司書と連携し、中央図書館の利用者を増やすためのポップを考えるという学習課題を設定する。

第二次では、「風切るつばさ」をもとに、物語の「ナゾ」を解かせながら、作者の作品に込めた思いを読み取らせたり、キャッチコピーやポップの作り方についてつかませたりする。

第三次では、自分が薦める本(テーマ「友情について描かれた物語」)のポップを作らせ、友達と交流させたり、学校図書館司書から助言を受けさせたりして、よりよいものにさせる。

## 単元の目標

- 作品に込めた作者の思いを読み取りながら、キャッチコピーやポップをつくることができる。 【関・意・態】
- 「友情について描かれた本」について、本を多読したり、比べ読みをしたりして、自分の薦める本を選び、ポップにすることができる。 【読むこと イ】
- 作品に込めた作者の思いやそれに対するキャッチコピーを交流し、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。 【読むこと オ】
- ポップにおける文章の構成を理解することができる。 【言語事項 イ(キ)】

## 単元でつける力

- テーマや目的に応じて、複数の作品を読み、自分の薦める本を選ぶ力。
- 友達との交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりする力。

## そのための言語活動

作品に込めた作者の思いをもとに、キャッチコピーを考えたり、作品のおすすめポイントについてまとめたりして、本のポップをつくる。

評価規準

教科【国語科】			育成しようとする 資質・能力
関心・意欲・態度	読む能力 (★論理的思考力)	言語についての 知識・理解・技能	
作品に込めた作者の思いを読み取りながら、キャッチコピーやポップをつくろうとしている。	★テーマに沿って、本を多読したり、比べ読みをしたりして、自分の薦める本を選んでいる。 作品に込めた作者の思いやそれに対するキャッチコピーを交流し、自分の考えを広げたり、深めたりしている。	作品に込めた作者の思いを読み取りながら、キャッチコピーやポップをつくろうとしている。	【論理的思考力】 多読や比較読みをして情報収集したり、分析したりしている。 【表現力】 相手(三原市の小学生)や目的(利用者増)に応じて、本のポップを作っている。 【共感性】 いろいろなポップや考えがあっても受け止め、認めている。

本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

【論理的思考力】

児童アンケートによると、「読書をすることは楽しい」と全員が肯定的に答えている。実態を見ても、家庭学習や休憩時間等にもよく読書をしている。

しかし、自分の好きなジャンルだけを読んだり、絵の多い本を選んだりする等、偏った読書になっている傾向がある。また、国語の授業では、叙述のみを表面的に読み答えたり、物語の流れを捉え間違えた勝手な読みをしたりする児童が見られる。

そこで、テーマを「友情について描かれた本」と設定し、図書館司書と協力して本を選び、並行読書させる。同じテーマの様々な本を読ませることで、多読をさせ、比較させ、分析させる。また、「風切るつばさ」を全員で読み、物語の「ナゾ」を解くことで、筋道立てて読む方法を学ばせる。その読み方をもとに、並行読書も行わせていく。

以上の学習活動を通して、論理的思考力を高めていく。

【表現力】

昨年度、本のよさを伝えるための「本の帯」や「本のポスター」をつくる学習を行った。自分が薦める本のあらすじやよさを捉え、キャッチコピーを考えたり、好きな場面の絵を選んだりしてつくることができた。しかし、木原小学校の下級生を対象としていたため、「つくりたい!」「読んでほしい!」と思うような意欲を高めることはできなかった。

今回は、三原市中央図書館に掲示をし、対象を三原市内の同世代の人を対象とし、さらに、利用者がアップするような「ポップ」をつくるという目的を設定することで、意欲的に作成できると期待する。

目的や相手を意識しながら、キャッチコピーを考えたり、イラストや言葉のレイアウトを考えたりすることによって、表現力を高めていく。

【共感性】

2つのポップができる。1つは、「風切るつばさ」のポップであり、もう1つは自分が薦める本のポップである。前者では、共通の物語であるが、選んだキャッチコピーやイラスト、レイアウトがそれぞれ異なるものができる。互いに見合うことで、表現の幅を広げることができる。後者では、様々な話の様々なポップができる。互いに見合うことで、よさや改善点を交流し合い、図書館利用者が本当に読みたくなるかよりよくしていく必要感がでてくる。いろいろなポップに触れることで、それぞれを認め、よさを学んでいくことを期待する。

**研究仮説にかかわって**

**【思考の「見える」化】**

児童の思考を「見える」化するために、ノート指導では、物語の「ナゾ」を設定し、それらを解決するために考えた個人の読みや集団での深まった読みを書かせる。個人で考える時間を確保し、考えたことをノートに確実に書かせる。また、話し合いをしながら深まっていった考えは、その都度ノートへ記入させる。また、並行読書で読んだ本についての記録をノートにさせる。あらすじやよさ、感想をまとめさせる。本のポップを作る時に、活用できるように記録させる。

**【相手や目的等の「意識」化】**

本單元では、言語活動を「本のポップ作り」と設定している。相手は、三原市中央図書館を利用する同世代の人（小学5年～中学1年）であり、目的は、ポップを掲示したコーナーを作ることを通しての三原市中央図書館の利用率の向上である。

「意識」化させるために、図書館司書に単元の始めや途中、まとめに授業に入っただき、ポップ作成の助言などで連携をする。

**指導計画** (全7時間)

次	時	学習活動	評価			
			関	読	言	評価規準 (評価方法)
一	1	<b>課題の設定</b> 学習課題「中央図書館の利用者アップ大作戦！」を設定し、本のポップを見て、学習計画を立てる。	○			学習課題から学習の見通しをもち、学習計画を立てている。 (ノート・発言)
	2	<b>情報の収集</b> 物語「風切るつばさ」を読み、一人学びをする。		○		本文を読んで、物語の大体を捉え、物語の「ナゾ」を見つけている。 (ノート)
二	3	<b>整理・分析</b> 物語の「ナゾ」について話し合い、解決する。		○		物語の「ナゾ」について、叙述をもとに考え、答えを見つけている。 (ノート・発言)
	4	<b>情報の収集 整理・分析 (本時)</b> キャッチコピーを考え、「風切るつばさ」のポップを作る。		○		作品に込めた作者の思いやそれに対するキャッチコピーを交流し、自分の考えを広げたり、深めたりしている。 (ノート・発言)
	5	<b>まとめ・創造・表現</b> 「風切るつばさ」のポップを完成させ、互いに見合う。	○		◎	作品に込めた作者の思いを読み取りながら、ポップをつくらうとしている。 (ポップ) 相手を意識しながらポップのレイアウトを考えている。 (ポップ)
三	6 ・ 7	<b>まとめ・創造・表現</b> 自分が選んだ本のポップを作り、友達と見合いながらよりよいものにしていく。		◎	○	テーマに沿って、本を多読したり、比べ読みをしたりして、自分の薦める本を選んで、ポップを作っている。 (ポップ) 相手や目的を意識しながらポップのレイアウトを考えている。 (ポップ)
		<b>実行・振り返り</b>	三原市中央図書館 ポップを活用したコーナー作り			

「友情について描かれた本」の並行読書

本時の学習

【5学年 本時の目標】

○「だいじょうぶ だいじょうぶ」に込められた作者の思いを考え、キャッチコピーにまとめることを通して、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。

【準備物】

場面の挿絵、ポップ作成用の紙（ケント紙）

【6学年 本時の目標】

○「風切るつばさ」に込められた作者の思いを考え、キャッチコピーにまとめることを通して、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。

【準備物】

場面の挿絵、ポップ作成用の紙（ケント紙）

○評価規準【教科】 (評価方法) ★望ましい姿【資質・能力】	指導上の留意点	学習活動		学習活動	指導上の留意点	○評価規準【教科】 (評価方法) ★望ましい姿【資質・能力】
<p>○ 読む (論理的思考力) キーワードやキャッチコピーにまとめることを通して、作者が作品に込めた思いについての自分の考えを広げたり、深めたりしている。 (ノート、発言)</p> <p>★ 表現力 三原市の同世代の人が読みたくなるようなキャッチコピーやポップを考えようとしている。</p> <p>★ 共感性 作者の思いを的確に表したキーワードや三原市の同世代の人が読みたくなるようなキャッチコピーやポップを出し合い、自分と異なる意見でも興味をもって聞いたり、自分の意見に取り入れたりしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画から本時のめあてを確認させる。</li> <li>・作品モデルからキャッチコピーのポイントを押さえ、それらを意識させる。</li> <li>◎見た人が一目で興味をもつ。 ◎できるだけ短く。印象を与える。 ◎作品の主題 (作者の思い)</li> <li>・前時までの学習を振り返らせながら考えさせる。</li> <li>・作者が作品に込めた思いとその根拠についてノートにまとめさせる。</li> <li>・根拠について本文をもとにさせる。</li> <li>・意見を出させた後、質問や意見があれば出させる。</li> <li>・出てきた意見をもとに、キーワードにまとめさせる。</li> <li>・目的 (読んだことがない人が読みたくなる) や相手 (三原市の同世代の人) も意識させながら考えさせる。</li> <li>・できた人から黒板に書かせる。黒板に書かれたキャッチコピーを参考にさせて、キャッチコピーのアイデアを広げさせたり、深めさせたりする。</li> <li>・自分の考えたキャッチコピーについて説明させる。(自分の思い、工夫等)</li> <li>・時間を見計らって、ポップづくりへ学習活動に移す。ポップのレイアウトをノートに簡単にかかせる。できた児童からポップをつくらせる。</li> <li>・家庭学習でレイアウトを考えさせる。</li> </ul>	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>作者が作品に込めた思いをもとに、ポップのキャッチコピーをつくろう。</p> <p>2 モデルをもとに、キャッチコピーのポイントを確かめる。</p> <p>3 作者が作品に込めた思いについて、自分の意見をまとめる。</p> <p>作者は作品を通してどんなことを伝えたかったのでしょうか？ 作者が作品に込めた思いは何でしょう？</p> <p>4 意見を出し合い、キーワードにまとめる。</p> <p>5 キーワードをもとに、キャッチコピーをつくる。</p> <p>作者の思いが入っていて、ポップを見た人が興味をもつようなキャッチコピーはどんなものかな？</p> <p>6 「だいじょうぶ だいじょうぶ」のポップをつくる。</p> <p>7 本時の学習を振り返り、次時の内容を確認する。</p>		<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>2 モデルをもとに、キャッチコピーのポイントを確かめる。</p> <p>3 作者が作品に込めた思いについて、自分の意見をまとめる。</p> <p>4 意見を出し合い、キーワードにまとめる。</p> <p>4 キーワードをもとに、キャッチコピーをつくる。</p> <p>6 「風切るつばさ」のポップをつくる。</p> <p>7 本時の学習を振り返り、次時の内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画から本時のめあてを確認させる。</li> <li>・作品モデルからキャッチコピーのポイントを押さえ、それらを意識させる。</li> <li>◎見た人が一目で興味をもつ。 ◎できるだけ短く。印象を与える。 ◎作品の主題 (作者の思い)</li> <li>・前時までの学習を振り返らせながら考えさせる。</li> <li>・作者が作品に込めた思いとその根拠についてノートにまとめさせる。</li> <li>・根拠について本文をもとにさせる。</li> <li>・意見を出させた後、質問や意見があれば出させる。</li> <li>・出てきた意見をもとに、キーワードにまとめさせる。</li> <li>・目的 (読んだことがない人が読みたくなる) や相手 (三原市の同世代の人) も意識させながら考えさせる。</li> <li>・できた人から黒板に書かせる。黒板に書かれたキャッチコピーを参考にさせて、キャッチコピーのアイデアを広げさせたり、深めさせたりする。</li> <li>・自分の考えたキャッチコピーについて説明させる。(自分の思い、工夫等)</li> <li>・時間を見計らって、ポップづくりへ学習活動に移す。ポップのレイアウトをノートに簡単にかかせる。できた児童からポップをつくらせる。</li> <li>・家庭学習でレイアウトを考えさせる。</li> </ul>	<p>○ 読む (論理的思考力) キーワードやキャッチコピーにまとめることを通して、作者が作品に込めた思いについての自分の考えを広げたり、深めたりしている。 (ノート、発言)</p> <p>★ 表現力 三原市の同世代の人が読みたくなるようなキャッチコピーやポップを考えようとしている。</p> <p>★ 共感性 作者の思いを的確に表したキーワードや三原市の同世代の人が読みたくなるようなキャッチコピーやポップを出し合い、自分と異なる意見でも興味をもって聞いたり、自分の意見に取り入れたりしている。</p>